

## 令和元年度（8月） 第5回浜北区協議会 次第

日時：令和元年8月22日（木）午後1時30分から

会場：浜北区役所 大会議室（なゆた・浜北3階）

### 1 開 会

### 2 議 事

(1) 地域課題について

### 3 その他

(1) その他

(2) 次回開催日程について

### 4 閉 会

## 浜北副都心にぎわいづくり協議会における各部会の進捗状況について（令和元年8月5日時点）

### 活動状況

部会名 項目	サーキットモール部会	観光拠点部会	バス路線・交通問題部会	少子化対策部会
<b>A 部会長</b>	村松 辰芳（浜北商工会長）	松島 芳隆（浜北観光協会会長）	西村 恭一（浜北区自治会連合会長）	高倉 英博（浜北医師会長）
<b>B 委員数</b>	15人	16人	12人	7人
<b>C 開催回数</b>	17回	14回	12回	12回
<b>D 主な検討項目</b>	エリア・調査・手法等検討 副都心の核のイメージの確立 サーキットモールのPRと普及 ソフト・ハード両面の充実 関連個別事業の実施	北部地域に区内3番目の拠点 の拠点、浜北IC積極的活用 現状分析・勉強会（文化財、道 の駅、産業観光）・法人組織の 検討、道の駅の普及	課題の整理・設置目的の確認・現地 調査（ルートなど）・地域住民、進出 企業の意向確認・北区との連携・交 通渋滞の実情と対応	子どもを産みやすい環境の研 究・子育て環境の充実・地域が 一体となった子育ての仕組み の構築・子育て意識の向上
<b>E 活動状況</b>	副都心とサーキットモールの 調査・研究、イメージ図の作 成、空き店舗、スペース等調査 サーキットモールポスター、マ ップを作成、関連イベント実施 まちづくりトークでの報告	区内の観光拠点の研究や全国 の道の駅の調査(観光協会協力) を進める。 30～元年度に部会外も対象と した3回の勉強会を開催。	住民アンケート、自治連として要望、 まちづくりトークでの質問、提言書 の提出、交通量調査、染地台企業の アンケート調査、三方原・都田地区 主要進出企業への協力要望。この間、 随時、市及び交通事業者と協議する。	赤ちゃんフォトコンテストを2 回実施、3回目実施中 入選作品及び応募作品の展示 PR冊子の作成と各世帯回覧
<b>E 今後の展開</b>	マップを補完する冊子の定期 発行。ポスターやマップを利用 したイベントをさらに充実さ せる。他の部会と連携も検討。 サーキットモール内へ開設さ れるコワーキング施設と連携 し、人材育成と地元起業目指す	浜北区における道の駅設置の 意義を確認し、イメージを確定 その具体化を目指し、関連性 のあるメンバーを拡充。事業準備 のための法人、出資、場所等の 主要事項の検討を進める。	渋滞の解消と公共交通としての路線 バス利用のメリットを訴え、関係企 業への路線バス利用依頼を行う。住 宅とにおける高齢化が進む中での公 共交通への転換を図る。 北区自治会との連携を進め、区を越 えた活動とする。	好評だった赤ちゃんフォトコ ンテストについて、第3回も市 長を招き10月20日に開催す る。併せて、PR冊子を充実さ せ発行し、より少子化対策に関 連させた事業としていく。

※浜北副都心にぎわいづくり協議会実施計画策定部会(4つの部会)は、平成28年11月21日に設置され活動を開始している。

# 魅力ある浜北副都心の実現を目指して（民間からの浜北副都心基本計画の提言） 概要

## 第1 はじめに

### 1 はじめに(この基本計画の方針)

区役所移転、区を取り巻く環境が大きく変化しつつあること、などから浜北地域発展の機会を逃さないようにするため、民間主導で「浜北副都心構想」の基本計画を策定

### 2 なぜ副都心か（浜北地域の実態）

合併当時から副都心との位置づけ⇒「浜北副都心構想」策定。ただし、基本計画や実施計画は未整備  
施設の充実と人口の増加 ⇒ 実質的に都心に次ぐ地域

○副都心に見合った総合的な拠点となる地域としての考え方に立った整備が必要

### 3 副都心の必要性(浜松市に求められる副都心)

都市の広域化 都心部以外の別な拠点の必要性

大規模災害等の様々な危機・緊急事態に対する対応 ⇒ 都心部に代替する拠点としての副都心

### 4 地域の盛り上がり

副都心化に対する地域としての強みは、地域の発展という共通の目的で一致し、一体となって進められること

## 第2 浜北区と人口

都市を計る物差しとして「人口」⇒ 人口減が社会問題化する時代に人口が増加する浜北区をどう見るか

### 1 人口10万人を超える浜北区を

2・1・1 政令指定都市移行時と現在の各区人口比較（住民基本台帳による）

		政令市移行A	現在B	増減B-A	増減比%
	(17.7)	H19. 4	H28. 4		
浜北区	<b>87,919</b>	<b>89,923</b>	<b>97,745</b>	<b>7,822</b>	<b>8.7</b>
中区		248,434	239,278	▲9,156	▲3.7
東区		128,816	129,764	948	0.7
西区		113,546	112,780	▲766	▲0.7
南区		105,808	103,262	▲2,546	▲2.4
北区		96,021	94,223	▲1,798	▲1.9
天竜区		37,788	30,846	▲6,942	▲18.4
浜松市		820,336	807,898	▲12,438	▲1.5

○浜北区は合併時から一度も減少することなく、毎年、増加し続けている。根強い需要がある。

○増加量もコンスタントにあり、北区への工場進出に伴う宅地のニーズが高まっている。

○浜名地区の増加が目立つが、北浜地区の増加も多い。全市的に人口減少の傾向がある中で大きく減少している地区がない。

○大きな災害に見舞われていないこと。他地域に比べ津波や土砂崩れなどのリスクは高くない。

○行政機関、大型商業、大病院、学校、文化・スポーツ施設等がまとまってあるため、コンパクトシティの条件を満たし、利便性の高さがある。

○鉄道が区内を縦断し、高速で大量の移動手段となっていること。

⇒ ◎浜北区では人口10万人を達成し、なお、それを維持していくことは可能であると判断

## 第3 浜北副都心形成 将来像の実現に向けた施策・事業

### 1 にぎわいの副都心

○施設等と連携したイベントの充実

○駅前からプレ葉ウォーク浜北までの地域に店舗を誘致 ⇒ 多様な店舗の進出、多様なニーズへの対応と掘り起こしをサーキットモールの手法等により民間主導で実現

### 2 文化の拠点としての副都心

浜北文化センターを核とした新たな文化の拠点化

○地理的位置付け、駐車場、公共交通機関、行政、文化・生涯学習施設、商業の集積など他にない利点  
⇒ 地域文化を育てる拠点化を目指す。

### 3 コンパクトシティとしての副都心

○コンパクトシティと浜北副都心のイメージ

浜北駅前の近隣地区に様々な施設が集約 ⇒ 車社会に頼らない副都心

人の循環が持続され、地域の人々の協働により、自立して社会が維持されていく。

↓

浜北副都心がコンパクトシティという構造で維持される。(副都心をコンパクトシティが支える。)

### 4 交通拠点としての副都心

○浜北駅周辺は、副都心への利用者の増、都心部への通勤・通学者の増及び浜北駅を経由した通勤者の増によりさらに交通の拠点化 ⇒ にぎわいと混雑をもたらす

○今後、浜北駅の改修、道路の整備、公共交通（バス路線）への転換、パークアンドライドシステム導入などを進める必要

### 5 情報拠点としての副都心 ⇒ ○適切に情報発信 あり方検討

### 6 防災拠点としての副都心

防災の拠点として優れている。(都心との地理的關係 津波被害や土砂災害などのリスク少 災害拠点病院である浜松赤十字病院の存在 鉄道・新東名IC) ⇒ 今後具体的拠点化について検討

### 7 居住の拠点としての副都心

需要に応えられる住宅地の供給 ⇒ 中央北区画整理事業の推進等

### 8 医療・福祉の拠点としての副都心

○出生数に対する区内施設での分娩の率が4割を切る状態⇒ 「地元で出産ができる状態」を目指す

○地域の特性である自治会加入率の高さを生かし、コミュニティを生かした福祉の向上を目指す。

### 9 産業の拠点としての副都心

○事業所の集積 副都心地域には、企業の支店、営業所など営業の拠点が必要

### 10 都市の補完 「行政の副都心」化

◎都心に次ぐハブ機能を有し、行政機能において都心を補完する副都心を目指す目標

ア 本庁に行かなくても、なゆた・浜北(区役所)に行けば手続が済む。

イ 市民が集える区役所となっている。

ウ 住民自治が反映させられる区役所となっている。

○行政機能拡大のため、市の北部地域を管轄する税務署の設置

## 第4 浜北副都心と各拠点とのネットワークの形成

### ○副都心と周辺拠点とのネットワーク

- 北部観光拠点 ⇒ 区内に点在する観光ポイントを結びつける拠点整備 (例) 道の駅の整備
- 工場立地拠点 ⇒ 北区の工場地域への通勤者等のための公共交通機関利用促進 路線バス化推進
- 居住の拠点 ⇒ 各居住拠点ごとに孤立させないよう、また、副都心の高いサービスが利用できるよう、公共交通機関への転換などを進める。
- 新東名浜松浜北IC⇒産業と観光の拠点が整備され、高度な機能を持った結節点化を目指す。
- その他 ⇒ 浜北斎場及び新清掃工場(天竜区)の整備計画。交通問題等、様々な影響を注視

## 第5 10年後とその先の副都心

- 浜北駅周辺は、行政、文化、商業の拠点として、市内各所から人が集まっている。
- 浜北駅を中心とした交通のネットワーク化が進み、誰もが副都心を利用しやすい環境となっている。
- 副都心の発展に連動して、北部は観光のスポットが整備され、新東名高速道路を利用した観光客が訪れつつあり、平口と小林にも新たな拠点化が進んでいる。

## 第6 浜北副都心にぎわいづくり協議会の主体的役割

- 協議会の組織化⇒主体的に行う事業と行政等の団体に実施を促す事業に分類し、それぞれ進行管理
- 緊急性の高いものから順次に実施計画を策定⇒分科会、部会やプロジェクトチームを作り、実施主体とする。
- 自らの手で解決できないものは、協議会から関係者へ要請する。

### 浜北副都心にぎわいづくり協議会活動内容

第1回	平成26年11月4日	規約承認、役員選任、活動計画承認 構想説明、フェスタ準備
第2回	平成27年1月26日	フェスタ報告、副都心構想協議
第3回	平成27年3月9日	副都心構想協議 区役所移転説明 イベント方針 常葉大学、浜松バス及び株なゆた浜北による説明
第4回	平成27年5月20日	第2回フェスタについて協議 プレ葉ウォーク浜北及び遠州鉄道による説明
第5回	平成27年8月17日	副都心構想協議 まちづくり公社による説明
第6回	平成27年11月25日	北部都市整備事務所からの説明 新春公開放送について
第7回	平成28年2月18日	新春公開放送報告 中間報告案作成について 遠鉄浜北駅ホーム改修計画発表
第8回	平成28年4月14日	基本計画案への意見募集 浜北駅アンケート結果 区協提言書説明 新委員加入
第9回	平成28年7月22日	基本計画案の検討
第10回	平成28年8月22日	基本計画

## 第7 実施計画への移行・主要項目

### 1 優先的に実施計画に移行するもの

- 継続、拡大、発展させる事業
  - ア 「副都心にぎわいおもてなしフェスタ」
  - イ 大型商業施設、文化センター等と連携したイベント
- 副都心の核のまちづくり サーキットモールと路地裏の積極的活用
- 観光拠点整備事業
- 安定した人口の維持を目指した計画・人口10万人化
  - 分娩可能な医療機関の充実 ○子育てへの地域の積極的な関与

### 2 すでに事業が進行しているもの又は検討が進んでいるもので、副都心づくりに関連があり、関与する必要があるもの

- 都市計画道路寺島大原線等(浜北文化センターから十全記念病院までの間)の道路の整備・拡幅
- 市道貴布祢線等(浜北駅前からプレ葉ウォーク浜北までの間)の道路の整備・拡幅
- 浜北駅と北区を結ぶ路線バス運行
- 浜北駅の改修

### 3 直接関与できないが意見を発信する必要があるもの

- 浜北文化センターを核とした新たな文化の拠点化
- 需要に応えられる住宅地の供給
- 行政の副都心化

### 浜北副都心にぎわいづくり協議会委員名簿 (◎…会長 ○…副会長)

組織・団体名	氏名	職名等	組織・団体名	氏名	職名等
株なゆた浜北	柴田 淳司	営業課長	県タクシー協会 浜名湖北遠支部	大西 優二	外山タクシー(株) 社長
浜北文化センター 指定管理者	長谷川 香織		(一財)浜松ま ちづくり公社	鈴木 伸幸	理事長
プレ葉ウォーク	丹羽 隆夫	支配人	常葉大学	木村 佐枝子	准教授
浜北商工会	村松 辰芳 ◎	会長	知識経験者	池谷 敏	
地元商業者	吉田 英輝	北浜商店連盟会長	知識経験者	高倉 英博	浜北医師会長
地元商業者	金原 基晴	(株)かねはら社長	地元金融機関	飯田 昌弘	静銀浜北支店長
浜北観光協会	松島 芳隆 ○	会長	地元金融機関	伊藤 光寿	浜信浜北支店長
北浜自治会連合会	西村 恭一	会長	地元金融機関	山下 和記	遠信浜北支店長
貴布祢自治連合会	鈴木 進二	会長	地元金融機関	安形 真	磐信浜北東支店
なゆたテナント会	秋田 充		地元金融機関	富永 敏弘	とぴあ統括部長
遠州鉄道(株)	村松 浩友	運輸区長	浜松市	野中 敬	浜北区調整官
浜松バス(株)	大久保 公雄	社長			

※他に顧問として区内選出市議(5人)・県議(2人)参加